

※文字の大きさは Meiryō UI /12 ポイント以上とし、行間・文字間、上下左右の余白は変更しないでください。
 ※具体的に示したい図、写真、表、グラフなどは、(写真1) (表1) などと文中に記載し、右ページに(写真1) (表1) などと表記の上、貼り付けてください。
 ※文章と図等を組み合わせながら作成することも可能です。各項目の枠の上下幅は変更可能です。
 ※いずれの場合も、必ず A 3 片面 1 枚におさまるように作成してください。ファイルサイズは 5 MB 以下としてください。

エントリー学校名：岡山県浅口郡里庄町立 里庄中学校
活動名：学校規模の PBIS ～ポジティブ行動支援で学校づくり～
解決すべき課題：本校だけでなく、今どの学校も直面している課題 「叱るだけの生徒指導は通用しなくなってきた」と言われる。荒れた学校だけでなく、どの学校もインクルーシブな指導が求められる今、ポジティブな手法で、ポジティブな行動を促す『ポジティブ行動支援』を学校規模で導入することには意義があると考え、岡山県浅口支部の中教研の指定を受けて校内研究に取り組んだ。ただの実践報告で終わらないようにするため、応用行動分析学の『A B C フレーム』にもとづいて取り組み、ベースラインデータからの変化を見る『実験計画法』で検証を行った。
目標・方針：エビデンスを示すことで、やり甲斐と成果を得る 1 研究に入る前年度から講師を誘致し、校訓をもとに『望ましい生徒像』を具体化して目標を共有する。 2 普段の取り組みを PBIS の視点で整理しなおすことで、負担増を抑えながら取り組めるようにする。 3 応用行動分析学の手法でデータを取ってエビデンスを得ることで、やり甲斐と成果のある校内研究にする。
活動内容：学校規模でポジティブ行動支援に取り組むため、校務分掌を3つの柱に再配置 前向きな学校づくり——3層支援の第1層の目標は80%のため、生徒会活動の目標を高く設定した。 支え合う学級づくり——SEL を積極的に導入。生徒同士の賞賛カードも使い、相互の関係向上を目指した。 学び合う授業づくり——指導案と連動した ABC シートを活用し、教師の称賛回数と手法の向上を目指した。 その他——ポジティブ行動カードを1万枚以上発行し、全教員から生徒へ積極的に賞賛を行った。
活動の成果： ○前向きな学校づくりは、生徒会を中心に行った。3層支援の第1層の目標は80%のため、すでに8割ができていたこれまでの挨拶運動より難易度の高い「先取りあいさつ運動」に取り組み、自分から挨拶できる生徒を5割から8割へと増やした。また「清掃」ではなく「美化」の意識を高めるため、企業の研修資料を活用した。 ○支え合う学級づくりでは、SEL を積極的に導入し、QU を上方（承認されている）へと遷移させることに成功した。また、生徒同士の称賛を意識して活動した際には、生徒同士の声かけの回数が大きく向上するうえ、教員が授業に習熟するほど、声かけの向上率も高いというエビデンスが得られた。 ○学び合う授業づくりでは、指導案に行動随伴性の視点を入れた『A B C シート』を添付することで、常に教師の仕掛け（A）、生徒の行動（B）、教師のフィードバック（C）が連動するよう企図した。毎授業後に授業内容を振り返る検討会を持つことで、授業の段取りの向上とともに、教師の称賛回数も大きく向上（24回→50回→96回）することがわかった。
アピールポイント（アイデアや工夫）： ○3つの柱の全てでデータを収集し、どの活動でも比較的大きな有意差が得られた。 ○すでにある活動を校内研究に落とし込んだり、複数の活動やアンケートを統合・廃止したりすることで、教員の負担感を軽減しつつ、新しい取り組みにリソースを割くことができた。 ○教育心理学会では論文で、行動分析学会では ZOOM 会議で、エビデンスを示しながら成果を発表した。

校務分掌を3つの柱に位置づけ

時期	学校づくり	授業づくり	学級づくり
前年度	全教職員対象のポジティブ行動支援・応用行動分析学研修 全教職員によるポジティブ行動表の作成 データ収集法を検討 研究組織編成	全教職員によるポジティブ行動表の作成 全教職員によるポジティブ行動表の作成	ポジティブ行動支援は先生や子どもの願いを実現する 問題行動を減らすアプローチではなく ポジティブな行動を増やすアプローチ 支援前 問題行動 支援後 適切な行動
初年度	ポジティブ行動カード 生徒会 あいさつ運動 カード印刷 配布・集計開始	↑ ゴールの明示と共有 授業者の言語賞賛増加を目指した授業づくり 校内授業研究	3層支援モデル 3層支援→5% 2層支援→15% 1層支援→80% 80%が目標→
1学期		↑ ゴールの明示と共有 授業者の言語賞賛増加を目指した授業づくり 校内授業研究	
2学期	ベースラインデータ収集 助言者が定期的に関与	授業における子どもの行動を成立させるには 教師の行動(指導) → 子どもの行動(学習) → 教師の行動(指導) 書き方の指導 全員が見てから待つ 話を聞く 机間指導 ノートを書く 黒板を見る 手を止める 話を聞く 賞賛・承認 確認	活用してデータ分析 SELによる介入 やや侵害認知減 (トラブル減) 非承認減 (承認されたと自覚)
3学期	介入とデータ収集	毎月1～2回の研修 検討会が効果を発揮	QU分布の向上
2年度	最低値・最高値とも改善	教師の称賛回数が向上	コロナ休校による関わり方の尺度の低下を確認!
1学期			
2学期	先取りあいさつ運動による挨拶の向上を確認 エビデンスを検証し学会等で発表	称賛カードの改良 生徒同士の称賛活動を開始	
3学期	称賛カード掲示	称賛カード掲示	
	研究紀要 美正強明	紀要印刷・配布 校内研究発表会で総括 次年度以降に残すものを検討	